

主な出来事※

【内政】

- カーマ前大統領, メディアにマシシ大統領との確執を語る
- 野党連合党則, 議会事務局が却下
- 与党予備選で現役閣僚が軒並み敗退
- 2019年総選挙, 電子投票機の導入見送り

【外政】

- マシシ大統領, 第38回SADC首脳会合に出席
- サザン地区評議会, 日本大使館からの無償資金協力契約に署名
- マシシ大統領, アナン元国連事務総長の死を悼む
- マシシ大統領, ジンバブエの大統領就任式に出席
- マシシ大統領の訪中

【経済】

- モルブレA石炭火力発電所, 商業ベースでの稼働へ
- 政府, 耕地農業干ばつを宣言

【文化】

- 女子ソフトボール代表チーム, 日本での2018年女子ソフトボール世界選手権に参加

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○ カーマ前大統領, 航空機の使用を再び拒否される

7月30日, 大統領府はデブスワナ社(政府及びデビアス社の合弁企業)に対し, カーマ前大統領が依頼した同社保有のオラパ行き航空便の利用を拒否するよう命じた。カーマ前大統領はオラパ・レタカネ地区で行われる行事に参加する予定であった。モルピシ大統領府首席次官は, インタビューに対し, 前大統領の旅程は大統領府にて管理しており, 企業への「タダ乗り」要求は承認しない旨述べた。(1日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ 独立選挙管理委員会, 選挙人登録の準備を開始

独立選挙管理委員会は, 2019年総選挙のため9月3日から11月11日にかけて行われる選挙人登録の準備を開始した。(3日:デイリー・ニュース紙)

○ カーマ家, バングワト族の族長後継者を指名

バングワト族族長であるカーマ前大統領は, 弟のカーマ環境・天然資源保護・観光大臣を後継者に指名した。カーマ前大統領は独身であるため後継者となる子供がおらず, これまで後継者選びが不透明となっていた。(10日:メヒ紙)

○ カーマ前大統領、メディアにマシシ大統領との確執を語る

カーマ前大統領は、メヒ紙のインタビューに対し、昨今報道で取り上げられてきたマシシ大統領との確執について語った。カーマ前大統領は、大統領府からカーマ前大統領を報道しないようメディアに対し箝口令が敷かれている旨、コシ情報保安局(DIS)局長を前大統領私設秘書として登用することを拒むマシシ大統領に対抗し弁護士であるボコ野党連合代表を雇っている旨、マシシ大統領から指示された政府専用機の使用禁止に対する不満等を述べた。(10日:メヒ紙)

○ カーマ前大統領、プライベートジェットを購入か

カーマ前大統領は、国内の実業家が所有するプライベートジェットを約300万プラ(約3000万円相当)の価格で購入する契約を交わした模様である。同実業家は、以前にカーマ前大統領が政府専用機の使用をマシシ大統領から拒否された際にプライベートジェットを貸与していた。(15日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ 野党連合党則、議会事務局が却下

議会事務局に提出されていた野党連合の新党則が議会事務局により却下された。事務局は却下理由を、野党連合は4つの政党が同じ政治目的の下に集った集合体であり政党には属さないためであるとした。(17日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ 新政府報道官の任命

マシシ大統領は、新たに政府報道官として大統領府情報通信システム局(BGCIS)局長のディポウェ氏を任命した。同氏は、カナダのコンコルディア大学でジャーナリズムを学び、その後外務省に入省、外務省副次官を務めた後にBGCIS局長に就任していた。同氏はマシシ大統領が就任して以降スピーチライターを務め、大統領就任演説も起草していた。(17日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ 与党事務局、カーマ大臣に勝訴

カーマ環境・天然資源保護・観光大臣は、与党ボツワナ民主党(BDP)予備選で同大臣と同じ地区から出馬したディジェン氏の出馬資格に疑義を唱え、この出馬を認めたBDP事務局を提訴していたが、高裁はこれを却下し同大臣に裁判費用の負担を命じた。(25日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ 与党予備選で現役閣僚が軒並み敗退

25日、2019年総選挙に向けた与党ボツワナ民主党(BDP)の予備選挙が行われ、モレフィ大統領府・統治・公共政策担当大臣、カティ司法・国防大臣、マベオ雇用・労働生産・技能開発大臣等、現役大臣7名・副大臣3名が敗退する大番狂わせの結果となった。(27日:モニター紙他各紙)

○ セレツツェ大臣, 与党予備選で疑惑の勝利

25日に行われた与党ボツワナ民主党(BDP)の予備選挙で, セレツツェ・インフラ・住宅開発大臣は215票差で2位のモレフェ氏を下し勝利を収めたが, 未開票の投票用紙が投票所のゴミ箱で見つかるなどしたため, 対立候補から選挙結果の受入拒否が表明された。(27日:モニター紙)

○ 2019年総選挙, 電子投票機の導入見送り

政府は2019年の総選挙で電子投票機(EVM)を導入しない旨発表した。EVM導入を定めた選挙法改正案は2016年国会で可決されていたが, 同法案は2017年に公布されて以降, (野党による違憲訴訟により)施行されてこなかった。(31日:デイリー・ニュース紙)

○ 与党の長老会, カーマ前大統領を訪問しマシシ大統領との不仲を仲裁

28日, ケディキルウェ元副大統領をはじめとする与党ボツワナ民主党(BDP)の長老会は, マシシ大統領との不仲が囁かれるカーマ前大統領を訪問し懇談した。長老会は新旧大統領の確執で党が分裂するのを恐れ, 仲裁を試みたが, 関係者によると, カーマ大統領はこれを受け入れなかった模様。(31日:メヒ紙)

【外交】

○ サザン地区評議会と日本大使館間での草の根・人間の安全保障無償資金協力贈与契約署名

10日, 平成30年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「サザン地区レロルワネ幼稚園建設計画」を実施するための贈与契約署名式が実施され, 被供与団体であるサザン地区評議会カニエ地域支部の事務局長と竹田日本国大使は, 供与額86, 400米ドルの贈与契約書に署名した。竹田大使は, スピーチの中で, 「すべての関係者が協力し合うことで, この国の将来を担う才能豊かな子供達が育まれるだろう」と述べた。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, 第38回SADC首脳会合に出席

マシシ大統領はナミビアを訪問し第38回SADC首脳会合に出席した。同大統領は, スピーチの中で, SADC統合に向けてボツワナは地域規模の重要なインフラプロジェクトを実施している旨発言した他, 政治・防衛・安全保障協力の条約議定書に係る改定法令及びSADC地域におけるマラリア撲滅宣言に署名した。また, ダウ外相は, ナミビアとの防衛・安全保障に係る合同常設委員会を二国間国家委員会に格上げする合意文書に署名した。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, アナン元国連事務総長の死を悼む

マシシ大統領はコフィ・アナン元国連事務総長が死去したことを受けハポロネの国連事務局を訪問した。同大統領は, 「世界は巨人を, アフリカは息子を失った。ボツワナにとって, 親愛なる父であり, 兄弟であり, 友人であった。」と記帳した。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ 新韓国大使, 新セーシェル高等弁務官, 新ガーナ高等弁務官の信任状捧呈

新韓国大使, 新セーシェル高等弁務官, 新ガーナ高等弁務官はマシシ大統領に信任状を捧呈した。インタビューに対し, 新韓国大使は, ICT教育, エネルギー, インフラ開発, 防衛等の分野で協力関係を築きたい旨述べた。新セーシェル高等弁務官は, 両国は教育分野をはじめとして約30年に渡り親密な二国間関係を築いてきた旨述べた。新ガーナ大使は, 互いに学び合う協力関係を築きたい旨述べた。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, ジンバブエの大統領就任式に出席

26日, マシシ大統領はジンバブエを訪問し, ムナンガグワ大統領の大統領就任式に出席した。ムナンガグワ大統領は, 先般実施された大統領選挙で勝利を収めたが, 野党による選挙結果の無効申し立てにより就任式の実施が延期されていた。(27日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, 各国大使を集め懇談

23日, マシシ大統領は外交団ブリーフィングを実施し, 各国との友好関係構築や, 民主主義, ガバナンス, 環境, 野生動物・自然保護, 投資, 気候変動対策などを重視し, 積極的に国際社会の取り組みに参画する他, 国際司法裁判所 (ICC) の活動を支持する旨等述べた。(27日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領の訪中

29日, マシシ大統領は習近平主席の招待で中国に出発した。同大統領は, 8月31日から9月2日にかけて国賓訪問として習近平主席等との会談等を行う他, 9月3日及び4日はFOCACに参加する。同大統領にはダウ外務国際協力大臣, カティ司法・国防大臣, モカイラ運輸通信大臣, モラレ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣, ケネウエンド投資・通商産業大臣及びその他政府高官が同行。(30日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

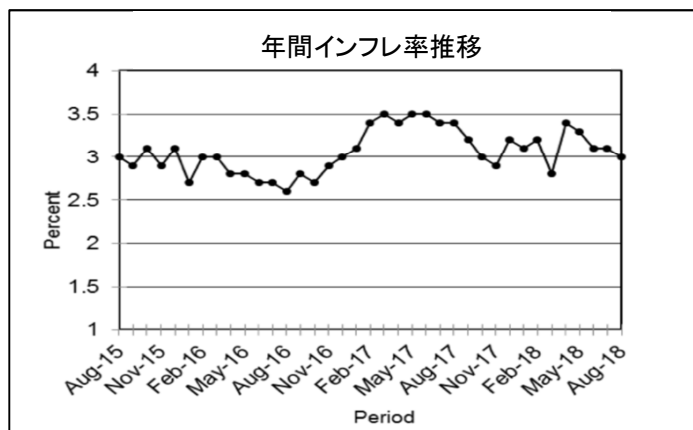
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2018年第1四半期の GDP は461億5250万プラとなり, 前年第4四半期(466億5370万プラ)と比べて-1.5%となった。(2017年GDP合計は1801億1270万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2018年8月は3.0%(7月は3.1%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2018年8月31日

1プラ=0.090米ドル

1プラ=1.314南ア・ランド

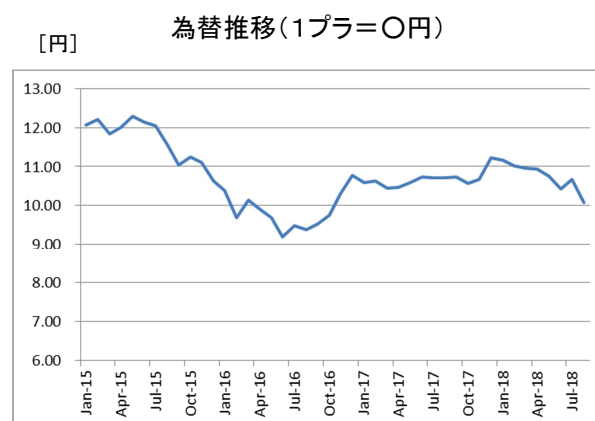
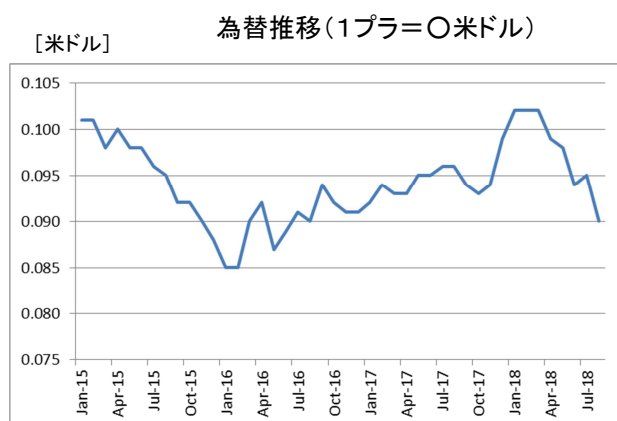
1プラ=10.08円

2018年7月31日

1プラ=0.095米ドル

1プラ=1.237南ア・ランド

1プラ=10.67円



○ ダイヤモンド産業

1) デブスワナ社の上半期のダイヤモンド原石売上9%低下

デブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社との合併企業)の上半期のダイヤモンド原石売上額は163億プラとなり、昨年同時期と比べ9%低下した。米ドル換算では同売上額は17億1000万米ドルとなり、昨年同時期と比べ2.5%低下した。(3日:メヒ紙)

2) デビアス社の第6期ダイヤモンド原石販売会の売上低下

デビアス社の2018年第6期におけるダイヤモンド原石の売上は5億3000万米ドルを記録し、第5期の売上5億8100万米ドルに比べ低下した。クリーバー・デビアス社 CEO は、第6期における

ダイヤモンド原石の売上の低下の理由を述べなかったものの、同販売会におけるデビアス社のダイヤモンド原石への需要は予想通りであった旨発言した。(3日:ウィークエンド・ポスト紙)

3) 副大統領, X線探査装置を巡りデブスワナ社社長と面会予定

ツォフワネ副大統領はデブスワナ社のダイヤモンド鉱山で導入される予定のX線探査装置を巡り、ボニヨンゴ・デブスワナ社社長と面会する予定である。同社のダイヤモンド鉱山では従業員による体の一部を使ったダイヤモンドの不正な持ち出しが問題となっており、同社はX線探査装置により、ダイヤモンドの不正な持ち出しを予防しようとしている。導入予定のX線探査装置の導入については、放射線による健康への影響などを理由に従業員への同社従業員、鉱山労働者組合及びカーマ環境・天然資源保護・観光大臣等が反対している。(4日:ウィークエンド・ポスト紙)

4) デブスワナ社, オンライン調達システムを導入予定

デブスワナ社は2018年11月からオンライン調達システムを導入する。同システムの導入により、デブスワナ社は業者との契約、支払い、提案、購入依頼及び請求をオンライン上で行うことができるようになる。(15日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ エネルギー・資源

1) モルプレA石炭火力発電所, 商業ベースでの稼働へ

6年間の改修を経て、現在モルプレA石炭火力発電所は試運転を行っており、45MWを発電している。ボツワナ電力公社(BPC)のCEOによると、同発電所の4つの発電ユニットの内、2つのユニットは8月末までに、残り2つのユニットは9月中旬に商業ベースで順調に稼働を開始する見通しである。(17日:メヒ紙)

2) モルプレB石炭火力発電所1~4号機の取引打ち切りの理由

6月、政府の公共調達資産処理委員会(PPADB)はモルプレB石炭火力発電所1~4号機の売買取引が鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省の要請により、破棄された旨発表した。政府は中国企業 China Machinery Engineering Corporation(CMEC)社と同発電所の売買に係る交渉を行っていたが、CMEC社の購入希望価格が低く、改修時の条件などで折り合いがつかなかったため、売買取引交渉は打ち切りとなった。(24日:メヒ紙)

○ 政府, 耕地農業干ばつを宣言

マシシ大統領はボツワナ脆弱性評価委員会(BVAC)の結論を受けて、2017/18年を耕地農業干ばつの年と宣言した。耕地農業干ばつは気象学上の干ばつとは異なる。6日に報道記者会見を行ったベンソン＝モイトイ地方自治開発大臣によると、毎年干ばつ及び家庭の食料安全保障の評価・分析を実施しているBVACは大雨、不均衡な降雨、猛暑等の理由により2017/18年の耕地農業の収穫に対し悲観的な予測をしている。(7日:デイリー・ニュース紙)

○ 韓国企業の光通信ネットワーク建設計画の受注

6日、韓国企業KT社は国営BoFiNet社から光通信回線を建設する計画を受注したと発表した。KT社は光電信通信サービスを首都ハポロネ市内の公的機関及び民間企業に拡大するためのシステムの導入と設計を担当する。同計画は現存の銅を基礎とした回線から50倍の早さの通信を可能にするFTTx(当館注:光ファイバーによる有線通信におけるユーザ宅向けの網構成方式の総称)光回線に改良することを目的としている。(10日:ボツワナ・ガーディアン紙)

【文化】

○ 女子ソフトボール代表チーム、日本での2018年女子ソフトボール世界選手権に参加

女子ソフトボール・ボツワナ代表チームは、日本で開催された2018年女子ソフトボール世界選手権に参加し、帰国した。同大会での戦績は、対日本20-0、対ベネズエラ8-0、対メキシコ8-0、対オーストラリア14-0となり、全て敗戦したものの、チームキャプテンのモラポン選手は自分たちのプレーの改善方法について日本で多くのことを学んだ旨発言した。(17日:ボツワナ・ガーディアン紙)